

特集.3 《愛南町》

今まで通りで 今まで以上

愛南リポーターズ
代表
國光 歩



●愛南リポーターズとは

我々は愛南町で活動する「愛南リポーターズ」という団体です。愛南町は合併してできた町で、町民の大部分は実のところ、「町内にまったく行ったことのない地区がたくさんある」という状態です。そんなわけで、「地元のことをもっとよく知ろう」、「それを広めよう」、「そして人と人を繋いでいこう」、「その結果、もっと町が元気になるといいな」ということで活動しております。

① 地元情報番組「愛南ワンダーランド」活動内容は次のようなものがあります。

の制作

メンバーが興味のあることをなんでもいから取材しています。ロケに行ったりゲストを招いたり。内容も生活の知恵から施設やイベント紹介、愛南町の伝統芸能や歴史について聞きに行ったり、グルメレポートをしたり。出演メンバーが町で声をかけられるほど、認知度が高くなっております。

② ふるさとCM大賞への応募作品作り
昨年は準グランプリを受賞しました。

③ 地元イベントや企業の映像撮影（CM制作含む）

最近では制作費をいただいております。

④ メンバーの自由な映像制作
あくまでも楽しく、自由に

制作した映像は、主に地元のケーブルテレビを通じて発信しております。

●愛南リポーターズの弱点

そんな愛南リポーターズには弱点があります。「町外への情報発信」が弱いんです。これまでも内輪ノリや自己満足だけにならないよう



愛南ワンダーランドの決めポーズW。
AとLもあります。

にと活動してはきたのですが、それはあくまでも「町内」という枠の中での話です。前述の「愛南ワンダーランド」はインターネットの動画サイトでも見ることでできますが、現在はどちらかといえばアーカイブ的な扱いです。

CMを作るにあたっても「町外の人に何をどういう風に伝えたいか」を考えるのがとても苦労します。アイデアが出て「○○はいんだけど、でもこれって他の地域の人がみたらどうかなあ。」というふうに、急に盛り下がってし



「かっちゃんとの出会い」がふるさとCM大賞愛媛県知事賞受賞！

まうのです。

●ピンチはチャンス

では今後どうするか。いやしの南予博「向け」に無理にでも町のPRのために、全員が一丸となって、プロモーション活動に取り組むような流れにすればいいのでしょうか？いいえダメです。というか無理です。なぜなら、町のためになればいいなという気持ちはすべてのメンバーの中にあっても、それは特別な使命感や義務感ではなく、あくまでも「まず自分たちが楽しむ、そして周囲の人も楽しくなれるようにする」という小さな頑張りの延長にあるものだからです。また、メンバーそれぞれの参加動機も「仕事につながるから」「サークルとして楽しいから」「技術を学んだり試したりしたいから」「目立ちたいから」「なにご様々です。報酬も義務もない自由参加の団体で過度の頑張りや強要することはできません



CMづくりの打ち合わせ。

奥ではセットの試作がはじまっています

ん。

じゃあどうするのか。答えは、これまで通り、興味のあること、楽しいことをやりながら、「ここに頑張っている人がいるから広めたい」「こんなイベントやるんだけど見に来てほしい」という町の人の声に地道に応えていくことです。新しいことを知る喜びと人の役に立つ達成感を大切にすることです。そういう意味では、いやしの南予博やえひめ国体といった大きなイベントは、私たちの団体が弱点を克服するいい機会になるのではないかと思っています。これまでの頑張りで、「映像のことなら愛



番組収録の様子。

カウントがはじまると緊張感が高まります。

南リポーターズに」という流れが、すでに出来つつあります。そうなれば、町の盛り上がり、自然と今より外を向かざるをえなくなってくるからです。

さらに、インターネットでの公開についてのこれまでの取組みも、かならず生きてくるはずです。プライバシーへの配慮はもちろんのこと、使用音楽はフリー音源や地元ミュージシャンのオリジナルソングを使用するなどの配慮もしてきました。閲覧数を伸ばすための工夫や研究も、少しずつですがやってきました。

番組制作の経験も生かせるはずですよ。ロケやインタビューの難しさは経験しましたし、撮影や編集の技術の向上にも取り組んできました。

ほんとこい、いやしの南予博。準備

はできています。ピンチはチャンス。これらの愛南リポーターズは「今まで通りで今更以上」に人を繋いで町を元気にすることができるとは



何かと活躍している南宇和高校放送部取材しました。